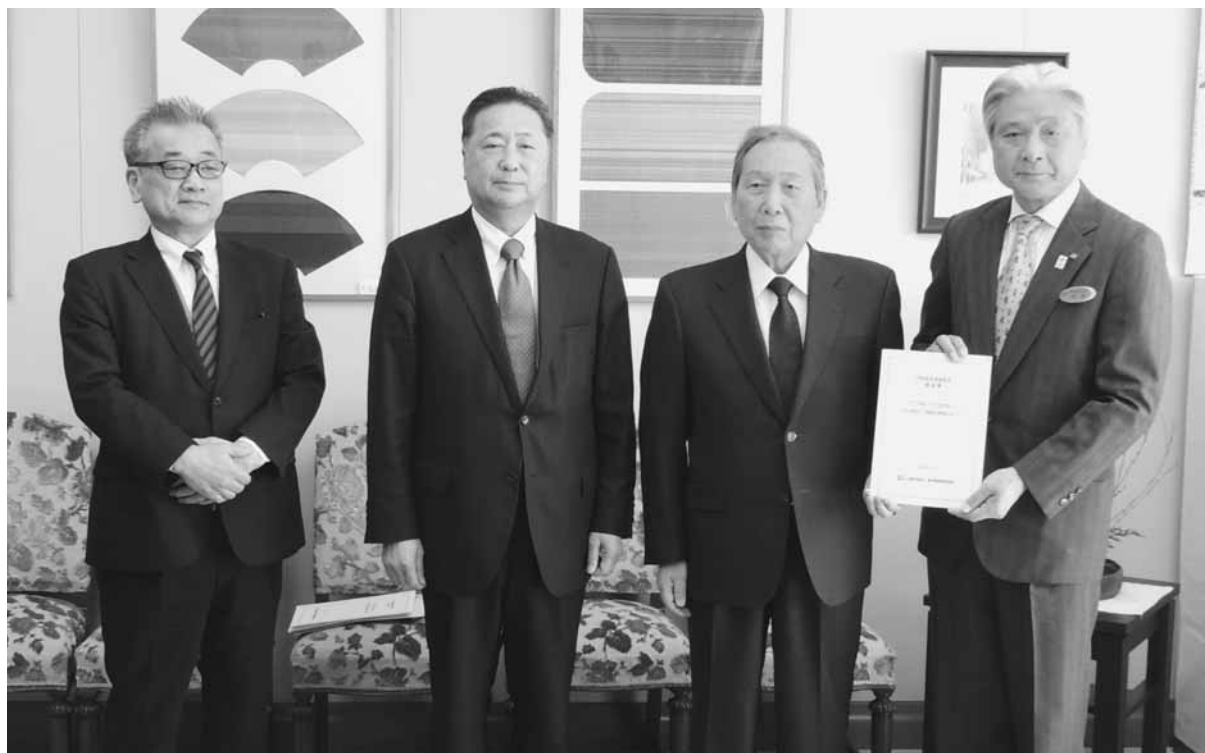


栃木県知事へ提言書提出

行財政改革委員会 委員長 伊沢 正吉（㈱あしぎん総合研究所 代表取締役社長）



日 時：平成29年2月2日(木)

11：30～11：45

場 所：栃木県庁本館9階 知事応接室

行財政改革委員会では、平成27年度～28年度の調査研究活動の成果として『ICT立県とちぎ』を目指して～とちぎ創生15戦略の実現に向けて～の提言書を福田富一栃木県知事へ提出した。

人口減少社会における地方創生の取組には、ICTの利活用は不可欠である。そこで、当委員会では、ICTの利活用に先進的である函館市や京都府の視察を通じて、ICT立県とちぎを実現すべく提言書の取りまとめを行った。

具体的には、県が平成27年10月に策定した「とちぎ創生15戦略」が、より効果的に実施されるようICTの戦略的利活用について、施策提言として下記の2項目を挙げ、それぞれの項目のポイントをまとめた。

(1) とちぎ創生実現に向けたICTに強い自治体づくり

- ①知事が率先してICT政策を推進する。
- ②知事のリーダーシップのもと新たに情報責任者（CIO）を設置する。
- ③情報セキュリティ責任者（CISO）については、庁内の情報セキュリティ統括業務に留まらず、（仮称）ICT立県とちぎ戦略会議における役割を検討する。
- ④ICTに強い自治体づくりに向けた組織体制を確立する。
- ⑤組織体制の確立と平行して、ICTに精通した専門的な人材を育成する。

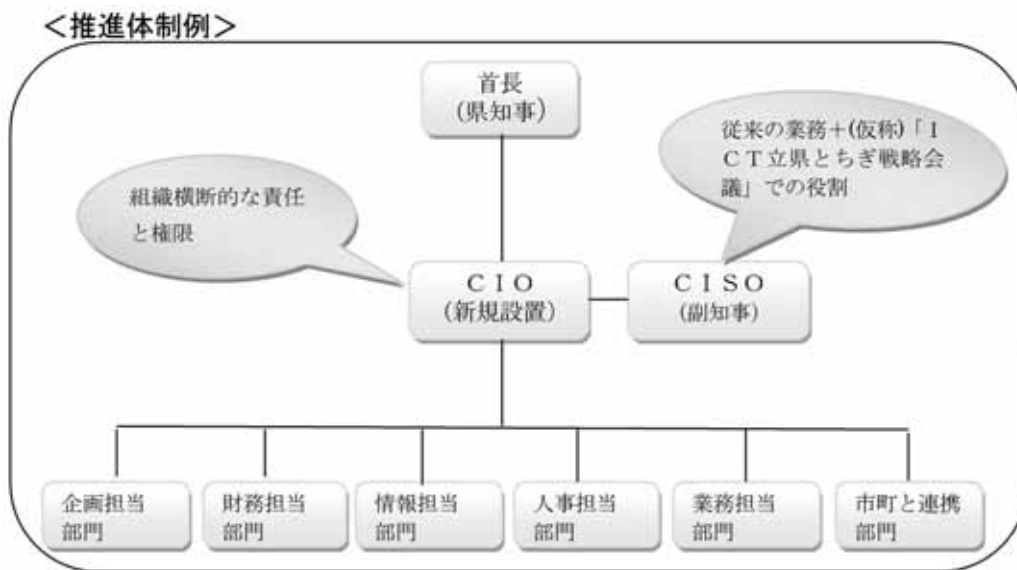
(2) ICT立県のための市町との協働・産学官の連携

- ①ICT立県とちぎの実現に向けて、市町や企業、大学との協働・連携をする。
- ②ICT施策のプラットフォームとして、栃木県庁内に（仮称）ICT立県とちぎ戦略会議を設置する。

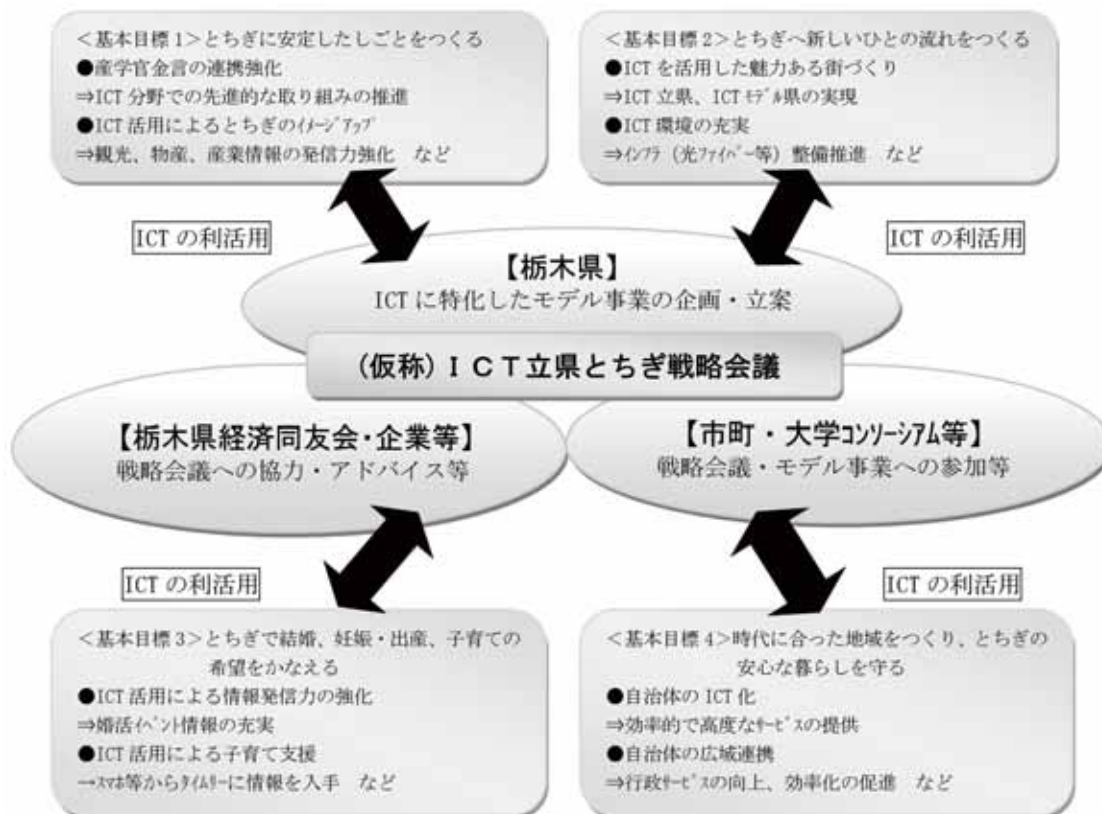
- ③（仮称）ICT立県とちぎ戦略会議は、栃木県が中心となり、市町・大学コンソーシアムとちぎ・栃木県経済同友会などが参加し、ICTの戦略的利活用等について協議する。
- ④オールとちぎ体制で「とちぎ創生15（いちご）戦略」を効果的に実施する。



〈情報責任者（CIO）と情報セキュリティ責任者（CISO）のイメージ〉



〈（仮称）ICT立県とちぎ戦略会議のイメージ〉



講師：赤松 俊彦 氏

栃木県 副知事



広島県生まれ
昭和62年3月 京都大学法学部卒業
昭和62年4月 自治省入省
昭和62年7月 栃木県総務部財政課勤務
昭和63年4月 栃木県総務部地方課勤務（～平成元年5月）
平成7年5月 沖縄開発庁振興局振興総務課専門官
平成8年4月 福岡県商工部通商観光課長
平成9年12月 福岡県総務部地方課長
平成11年5月 自治省大臣官房総務課長補佐
平成13年1月 呉市助役
平成16年7月 国土交通省都市・地域整備局地方整備課調整官
平成18年4月 金沢大学大学院人間社会環境研究科教授
平成20年4月 金沢大学人間社会研究域法学系教授
平成21年4月 総務省自治行政局地域政策課国際室長
平成22年4月 島根県総務部長
平成25年4月 総務省消防庁国民保護・防災部防災課長
平成26年4月 総務省自治行政局公務員部福利課長
平成27年7月 総務省自治行政局選挙部選挙課長
平成28年7月 栃木県副知事（現在）

日 時：平成29年2月8日(水)

8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：63名

【講演要旨】

県職員として世の中をどういうふうに見ているのかというようなことを少しお話をさせていただきますと思っています。

【30年前の栃木県】

私は昭和62年に自治省に入省し、最初の赴任地が栃木県でありました。約30年ぶりの里帰りをさせていただきました。当時、昭和62年は円高が急速に進むというような時代の流れでございまして、この時に1ドル150円を突破しました。バブルといいますか、景気のいい時代が始まってきたというような時代でありまして、例えば2月にはNTTが上場し、初値で160万円を付けました。4月には国鉄が民営化されました。

日本人の平均寿命が男性が75.23歳、女性が80.93歳で、男女そろって世界最高の水準の長寿国になりました。

栃木県を振り返ってみますと、様々な事件がありました。鹿沼の連続殺人事件、江川の引退、真岡鐵道が第三セクターとして出発したのもこの年です。この時の県の人口は189万人です。円の終値は円高が進み、1ドル123円でした。

昭和64年、この年に平成になったわけですが、年々株価が3万8,915円まで上がりました。そして、4月に消費税がスタートしております。6月には天安門事件がありました。消費税法が4月に成立をして、7月の東京都議会議員選挙で自民党が惨敗して社会党が躍進をしています。その後に参議院議員選挙では、土井党首の時に社会党大躍進、自民党惨敗、衆参のねじれが起きたということで、役所としては非常に大変な事件ですね。法案が通らなくなる、ねじれ

問題が出てきた事件であります。

【予算編成のポイント】

予算編成の着眼点ということでいろいろ考えましたのは、時代の流れとしての人口減少にどう取り組んでいくかということです。県では『とちぎ創生15（いちご）戦略』を策定し、大きな課題として位置付けをしているところです。政策としては、二つの側面があって、社会増減と自然増減から取り組むこととしています。社会増減対策ではU I J ターン、自然増減対策では、結婚・子育てを一元的にやっていく政策に重点を置いていくことになります。

財政状況については、県の財政は歳出と歳入がありますけれども、歳出は30年前の景気がいい時代から一生懸命社会資本を整備してきましたが、今後、老朽化対策に本格的に取り組む時期になっており、社会保障については高齢化対策の規模の削減をどのようにするかが主なポイントです。そういった中で歳入の話になると、県税収入の動向や国の財政状況をどう見ていくかというような様々な面に留意していかないといけない状況になっています。

危機管理に関しては、関東・東北豪雨災害がありましたけれども、栃木県は比較的大きな災害がないわけですのでございますけれども、日本を見ても、首都直下型や、南海トラフ地震の問題が出てきます。やはり危機管理という面でどういうふうに考えていくかということになります。

最後に政治情勢です。政策の安定的な推進にとっては、政治の安定が不可欠です。県政では、4期目の福田知事と自民党中心の県議会という盤石の体制となっていますけれども、県の産業・財政等は、国政と連動しているところがありますので、国政の行方に注目をしていかないといけないというふうに思っています。

【平成29年度の政策経営基本方針】

昨年10月13日に県で発表しましたが、平成29年に取り組んでいく重点事項の三つの

柱の考え方を立てました。

一つ目の柱は、社会構造変化への対応です。これが県政の最重要課題の一つになるかと思っています。安定した仕事を作ることや、新しい仕事、人の流れを作ることによってU I J ターン等を非常に大きな課題として認識しています。有効求人倍率が非常に高い状況ではありますが、ミスマッチ等で皆さん人材確保に非常にご苦労をされていると伺っております。優秀な人材をいかに確保するのかというのは企業にとっても死活問題ではございますし、人材確保は県庁にとっても大変な状況にあります。様々な業種を支えるべき人材の確保が非常にタイトになっています。外国人労働者をどういうふうにしていくかという議論も必要かと思っています。

二つ目の柱は、東京オリンピック・パラリンピック、国体に向けた取組みです。県政としても、継続的に仕事をやっていく上で、中期的な視点に基づいて取り組んでいかないといけないと思います。そういう意味でいえば、栃木にとっては東京オリンピック・パラリンピックというのは非常に大きな契機になると考えており、これに向けて計画的にいろんな取組みをすることは重要だと考えています。非常に首都圏から近い位置付けということもありますので、インバウンド対策、あるいは外国との交流を見据えてやっていくことになるかと思っています。

三つ目の柱は、危機管理です。通常の業務とは別に何かがあったときは緊急で対応することが必要です。ハード・ソフト両面から災害に強い栃木の実現に取り組むことが重要となります。

【むすびに】

今回の予算は知事4期目の最初の予算です。最優先の政策としては人口減少問題の克服と地域の活力維持。これらの課題にオール栃木体制で選ばれる栃木を目指して取り組んでいきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

モーニングセミナー 3 月

テーマ「経済講演」

—失敗の研究 取材現場から見た「企業の崩壊と再生」—



講師：金田信一郎 氏

(株)日本経済新聞社 編集委員

1967年 東京都生まれ。
1990年 横浜国立大学経済学部卒業
日経BP社入社。
日経ビジネス記者、ニューヨーク特派員、日経ビ
ジネス副編集長などを経て2014年より現職。

〈主な著書〉

- ・『失敗の研究 巨大組織が崩れるとき』(2016)
- ・『テレビはなぜ、つまらなくなったのか スターで綴るメディア興亡史』(2006)
- ・『真説バブル 宴はまだ、終わっていない』(2000、共著) など。

日 時：平成29年3月8日(水)

8：00～9：30

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：63名

【講演要旨】

私は27年ほど記者として取材を続けていますが、様々な出来事を、その中心人物や関係者から話を聞いているうちに、情報が層になって積み上がってきています。そして、企業や事件の取材を通して、共通した問題が、焦点のように見えてきました。それを本日は、是非お話をさせていただければと思っています。

【日本経済の状況】

皆さんは、日本の経済状況はあまり見通しが立たないと考えている方が多いのではないのでしょうか。でも、日頃から事件や不祥事の中心に立っていると、逆に、今の日本が安定した状態であるように見えます。ところが、多くの方は閉塞感を持っている。そのギャップの原因は、大企業を中心に、組織が非常に硬直化してきているからではないのでしょうか。20世紀型の大企業モデルが通用しなくなっています。

【テーマ：企業再生】

本日のテーマは、組織をどう再生するか、どうやって、閉塞感に覆われて硬直した組織を、もう一度柔軟で時代に対応した組織にす

るか、ということを見ていきたいと思います。

【傾斜マンション事件】

平成27年の、傾斜マンションの取材を振り返ります。三井不動産が横浜で開発して、その下に元請けとして三井住友建設、問題の杭工事は、2次に日立ハイテクノロジーズ、その下に旭化成建材という巨大企業がピラミッドを作って杭工事を行ったが、実際には杭が支持地盤に届いていなかった事件です。

今も、300億～400億ともいわれる全棟建て替えの費用を誰が負担するのか決まっています。巨大マンションが傾いたのに、各企業が責任を押し付け合っている状況です。大企業が集まって、何故こんな失態が起きるのか。不思議に思われるかもしれませんが、今の日本の大企業の問題を象徴しています。一言で言うと分断です。組織がバラバラで上下左右に不信が広がり、情報や命令がうまく流れないし、責任関係もよく分からない。だから、現場や顧客の状況や問題点も組織として理解できず、しかも情報が組織間でぶつ切れになっているのです。

【大企業が陥る問題】

企業の事件を見ていくと、大体こういう問題が社内で起きています。盲目的に売り上げを拡大しようとしてファットな組織になり、しかも後から継ぎ足していくので、組織が迷宮化して、意思決定や責任関係が曖昧になり

ます。そして、問題が起きると、「俺たちが悪いんじゃないくて、隣の部署や取引先が悪いんだ」と主張する。でも、消費者はそんな論理では納得しません。それでも、「自分たちのやり方がいいんだ」という独善化にはまっていき、恐竜化して、変化対応ができずに躓いてしまう。

【参考となる企業：3M（スリーエム）】

柔軟な経営組織で今も成長を続けている企業があります。アメリカの3Mです。

ポスト・イットが失敗から生まれたことは、有名な話なのでご存じかもしれません。強い粘着剤を作ろうとしたら、失敗してすぐ剥がれる糊（のり）ができてしまった。しかし、「何かに使えるんじゃないか」と、社内の技術者を集めて講演会をやったんです。それを聞いていたある研究者が、休日に教会で賛美歌を歌っていると、本に挟んでいた葉が落ちてしまう。その時にポスト・イットのアイデアが閃いたのです。

3MのデジモニCEOに取材した時のこと。彼はこういう話をしました。昔、ある部署の上司の時に、部下が出してきた防寒繊維のアイデアを「売れないからやめろ」と却下した。ところが、ある日、それがシンサレートという、今スキーウェアなどで使われている生地として売り出されて、爆発的なヒットになってしまう。彼は、自分の判断ミス話すのです。そうすると他の人たちも、「CEOになるような人でも、判断ミスをする」と。そして、失敗が成功に結びつくと社員が信じることができる。

つまり、彼らの成功体験は、失敗や判断ミスを含んだストーリーとして、広く社内に伝えていく。人々が交わってアイデアを出し合い、失敗してもいいから挑戦していく。だから毎年、500もの新製品が出てくるわけです。勿論、売れないものもあります。でも、組織でやっているのだから、多少失敗してもいいんです。

結局、社員がやりたいことをやるので、当時コンピュータ分野に次々と進出していきましたが、CEOがトップダウンで指示するのではなく、部下が勝手に「こっちのほうが面

白い」と進むので、いつの間にかコンピュータの一大事業ができてしまった。追認するようにそこを組織として作っていく。まさに生命体のように経済や環境変化に対応する、そういう組織が米国にあることに驚きを感じました。

多くの日本企業はシリコンバレー的経営より、3Mを参考にすべきではないかと思います。

【日本国内の好事例】

日本国内で今、どういう企業が未来的なのか。小さい企業にもヒントが見えます。例えば鹿児島の家電販売店が面白い。これまで巨大チェーンの家電量販店が地方に出店して、値引きやポイントで競争して薄利多売になっています。パソコンや携帯を売っても、ほとんど利益が出ない状態になっている中で、鹿児島のある家電販売店は、地元根付いて、おじいちゃん、おばあちゃんの居間に上がり込んで、お茶を飲みながらずっと話をしている。そうすると、おじいちゃんが、「ちょっと新しいテレビを買おうかな」とか口にする。割り引きしないで買ってもらえるわけです。ポイントも値引きもほとんどありません。その代わり、一緒に電球持ってきて付けてあげたり、リモコンで押すボタンにシールを付けてあげたりする。そういう小売りの方が今の社会に合っているかもしれない。自然と住民や地域が支えてくれる。そこに、組織再生のヒントが隠されていると思っています。

【むすびに】

やはり良い組織は、人々が分断されているのではなく、有機的に結びつき、そして地域社会を含めて、全てがつながって作用し合いながら、生命体のように社会に溶け込んでいる。私が27年間、取材を続けてきて、今、何を取材しても、結局そこに行きつく、そういう気がしています。

われわれメディアもその中で、人や社会を結びつけていく一つの媒体として、その間に入って一つ一つ、大きな失敗と小さな成功の物語を綴り続けていきたいと思っています。

地域活性化支援実行委員会

H. C. 栃木日光アイスバックス支援金贈呈式&ホームゲーム観戦

委員長 酒井 誠（㈱酒井建築設計事務所 代表取締役社長）

【支援金贈呈式】

日 時：平成29年 1 月14日(土)

会 場：栃木県立日光霧降アイスアリーナ



当会の4プロスポーツの支援事業で、今回は、日光アイスバックスにニューヨークで開催されたジュニアアイスホッケー大会「ライトハウストーナメント」を支援するものである。渡航費の一部を支援することにより、より多くの栃木県の子供達をアメリカの大会に連れて行き、栃木の子供達の世界が広がること、豊かな人間形成へとつながることを支援する事業である。



【ホームゲーム観戦】

日 時：平成29年 1 月26日(木)

15：15～21：00

会 場：栃木県立日光霧降アイスアリーナ

参加者：10名

プロスポーツを通じた地域活性化を活動テーマとする当委員会では、本県の誇る4つのプロスポーツチームを応援観戦し、各チームの素晴らしさをPRするとともに今後の調査研究活動に反映させている。

今回は日光アイスバックスホームゲームを観戦した。また観戦に先立ち、明治の館別館にて懇親会を行い、会員相互の交流を深めた。



《日光アイスバックス VS

デモンキラーホエールズ戦》

平日の夜の霧降には、1,061名のファンが詰め掛け、選手に大声援を送り続けた。6位のボックスは、5－1で8位のデモンに快勝した。



国際化推進委員会

「とちぎグローバル人材プログラム」採択者による留学報告会

委員長 益子 博美（株式会社花のギフト社 代表取締役社長）

日 時：平成29年1月19日(木)

15：00～18：30

会 場：宇都宮大学 峰が丘講堂

参加者：15名



大学コンソーシアムとちぎは、宇都宮大学において平成27・28年度「とちぎグローバル人材育成プログラム」採択者による留学成果報告会を実施した。



出席者は、平成27年度及び平成28年度にとちぎグローバル人材育成プログラムの支援を受けた学生29人（基礎コース24人、上級コース5人）、上野通子参議院議員、福田富一栃木県知事、県関係者、当会から中津代表理事、益子委員長、内藤副委員長、茅野副学長ら約

15人、大学関係者や留学等を考えている学生等約40人の計80人以上となった。

本事業（上級コース）の第3期奨学生は全員が発表を行い、留学中に直面した課題等を各人が思い思いの方法により克服してきたことが出席者に十分伝わる内容となっていた。



また、報告会終了後には懇親会が行われ、学生と企業の方々が、留学のことや将来のことについて、率直な意見交換を行うことができた。

多くの応募者の中から選抜された学生が、実際に留学し、一回りも二回りも大きくなり帰国したことが実感できた。今後は栃木県のため、益々活躍することを期待し、当会としても人材育成から地元への根付かせる仕組みづくりとプログラムの発展について検討していきたい。

未来経営研究会 第2回通常総会・講演会

代表世話人 郡司 祐一（株関東農産 代表取締役）

講師：前田 覚 氏

みゆきがはらスイミングスクール 主任コーチ

演題：選手能力を引き出す為の指導法



〈略歴〉

- 1972年生まれ 栃木県河内郡上三川町出身
- ・宇都宮学園（現文星芸術大付高）在学中に、栃木イトマンSS（当時）で水泳指導のアルバイトを始める
- ・1990年4月 高校卒業とともに同スクール（光星グループ）に入社。
- ・1998年4月 みゆきがはらスイミングスクールの立ち上げと同時に有限会社スポーツアドバンスに勤務。
- ・現在に至る。
- ※第4回下野新聞KIZUNAスポーツ大賞 スポーツ振興功労賞受賞

日 時：平成29年1月20日（金）

16：40～17：40

会 場：栃木県産業会館 8階保証協会会議室

参加者：36名

【委員長挨拶】

当研究会では、優れたリーダーシップの獲得をテーマに日々活動しています。会社や地域を良くするためには人材教育は必須です。萩野公介選手を始め優れた選手を多数輩出している前田コーチの指導法を是非お聞かせいただきたいと思います。

【講演要旨】

未来経営研究会第2回総会講演会、選手能力を引き出すための指導法という形で、普段大切にしていることを披露させていただきたいと思います。

【指導した選手の紹介】

①萩野公介選手

小学生3年生の時に、当スクールに入会しました。当時から本当に素晴らしい泳ぎをしていて、3年生でこんなに本当にうまく泳げるのかというのがまず衝撃的で、正直こんなすごい選手、上手に育てられるかなという不安があって、自分のやり方に自問自答しながら指導してきました。

小学校時代は本当に同学年では無敵で、まづもう誰も勝てないっていうような、本当にずばぬけてまして、小学生時代には学童記録を背泳ぎと個人メドレーで樹立しまして、中学校になると、同じように中学記録も樹立していきまして、高校記録、日本記録、2012年はロンドンオリンピックに出場して、当時高校3年生17歳で、400メートル個人メドレーで銅メダルを獲得。200メートル個人メドレーも5位に入賞しました。現在は、東洋大学4年生で、あの北島康介の担当コーチ平井伯昌先生にお世話になっていて、去年リオデジャネイロオリンピックでは、400メートル個人メドレーで日本記録で金メダルを獲得。200メートル個人メドレーは銀メダル、800メートルフリーリレーでは銅メダル、200メートル自由形では7位という成績を残しました。

②清水咲子選手

当スクールに来たのは中学2年です。当時うちには萩野選手を始めその三つ上に森洋介選手がいて、彼も萩野選手の前の日本中学記録保持者、高校記録保持者で、アジア大会等も優勝しております。そういう速い選手と一生懸命やる練習をしたいということで、うちのほうに移籍してきました。高校3年夏の沖

縄でのインターハイで優勝することができました。400メートル個人メドレーの優勝レースは猛暑の中で、水温も高く、非常に競泳選手としてはタイムが出しにくいという状況の中でした。400メートル個人メドレーは、100メートルずつ、バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールの順番で泳ぎます。平泳ぎの時点で彼女ビリだったんです。普通8番でタッチしたら、なかなか8人いる中で、ラストの100メートルで1番になるっていうことは普通無理ですけども、どんな環境であれどんな状態であれ、一生懸命やっている強い者が勝つという信念をすごく持っている選手で、最後の100メートルでみんながばててきたところを、一気に7人抜いて優勝しました。本当に努力家で素晴らしい選手です。

その後、日本体育大学に進学しまして、正直に清水選手は頑張っても日本で3番ぐらいの選手なんだろうなって思っていました、それを彼女は覆してくれて初めてオリンピック出場を決めました。本当に諦めず努力する、という強い気持ちを持った選手は、そういう場面で上に立つことができることを学びました。初めてのオリンピック出場で、決勝に進出して堂々の8位入賞。予選では日本記録を更新しました。決勝では残念でしたが、十分素晴らしい成績を残してくれました。



【コーチの気持ちを選手に伝える】

まず最初に選手に、コーチはこういう気持ちで選手を指導してるよということを、先に伝えます。選手が頑張ってるのは分かってるんだよ。しかしそれ以上の努力をすることによって、さらに速くなれるし強い選手になれ

るんだよ、だから厳しく指導するということを、まず言い聞かせます。次に情熱、愛情を持って指導する。時にはもちろん厳しく、時にはこっちも感情を出して、嬉しいときには泣いたりしました。選手にとって、コーチはこんなに真剣に思ってくれているんだなという、厳しさの中にも優しさがあるということを伝えることが、コーチと選手の良い関係に繋がっていくと思います。

次に、水泳を嫌いにさせないことです。指導者として絶対してはいけないことだと思って指導に当たっています。

次に、速くなるポイントとして、ライバル、競争相手を作りなさいと常々言います。萩野選手にとって本当に良かった点は、その三つ上に森洋介という選手がいて、私が初めて日本一にさせた選手なんです、要は萩野選手が学童記録出しても、森選手は中学記録を出します。当然、中学記録のほうが速いわけです。だから、全国で1番を取れる選手が常に上において、同じ環境で練習できたというのは、すごく萩野選手にとっては常にプラスでした。泳ぎの改善だったり情報交換を持ちながら練習できた環境というのも、本当に幸運でした。

次に、選手の考えを尊重する。中学生、高校生になってくると、自分の考え方をもちたがります。自分の意見を押し付けるだけの指導ではなくて、必ず選手の考えを聞き入れてポイントを与えたり、コーチはこう思ってるけどどう思うみたいな感じの、会話の中で泳ぎをつくっていったり、練習をしていったりしていく形が一番良いのかなと思います。結局押し付けの練習ばかりしていると、選手はそれだけしか考えられない。そういう部分で選手の気持ちや考えを尊重して指導しました。

次に、大会はアピールの場所。大会でしっかり結果を出せるような選手になってほしい。やはり大会でベストタイムを出すことが、モチベーション向上につながります。

次に、選手が苦しいときはコーチも苦しい

ということを伝えます。そのときには、選手が頑張らないから駄目なんだよって、一方的に放り投げるのではなくて、コーチだって選手のために次の指導法を色々考えてるんだよって伝えることによって、選手の気持ちが少しでも不安から解消されて、早くスランプから脱出できるんじゃないのかなと思って、そういう指導を心掛けてました。

最後は、コーチは多少ずっこけてるぐらいのほうが良いと思います。これは僕の勝手な主観ですけども、コーチがあんまり完璧過ぎると、子どもはミスが許されないような感じで、緊張しながら練習するかと思います。コーチがたまに本数間違えたりとかすることで、コーチでも間違いはある、間違えるのは選手だけじゃないんだ。このような感じで親近感が生まれて、コミュニケーションも取りやすくなったりします。どうしてもコーチは選手にしてみれば、すごく上の立場にしか見てないですから、やっぱり僕の指導の中では、コーチと選手はプールから出ちゃえば、もう接しやすい環境にいたいと思います。もちろん、最低礼儀・マナーは教えますけども、何でも言い合える環境をつくるのは、指導する側にとって大切なことだと思います。

【目標を明確にし、実行力を高める】

まず最初に、①絶対に達成できる目標を必ず書かせていました。1年間の目標ですね。絶対ですから、そんな難しいことは書かなくていいわけです。1年間でベストタイム出すとか、簡単なことです。②次に、何とか達成したい目標を掲げさせます。最初の段階をクリアしたことによって、次の目標に今度また気持ちを切り替えさせるための戦略というか、じゃあ今度これも達成したいっていうふうな形で、仕向けていきます。③最後に、最大の目標。これができたら1年間通して最高だったなっていう目標を持たせます。毎年、1年間書かせるんですけども、萩野選手はやっぱりかなり高いレベルでの目標を掲げるんです

けども、それをやっぱりしっかりクリアしていくんですね、最大の目標。

【夢、目標は大きく持たせる】

日本一になりたいとか、栃木県でチャンピオンになりたいとか。やっぱり夢を大きく持てない選手は駄目かなと思うので、常々、夢は大きく持ちなさいといつも指導しています。

また叶わないと思ったら、絶対に達成できないと思うので、絶対そういうふうには思わないこと。2番目に、目標・課題の克服が本当に夢が現実になんて近づいていくということ。最後に、ジンクスを打ち破る。絶対はあり得ない、どんどん覆そうというような姿勢で指導します。

【前田が考える指導法】

技術面での様々なポイントはありますが、ジュニア時代に一番重要だと思っているのはメンタル面の強化です。絶対諦めない精神力です。中学生・高校生のときに、本当に諦めない精神力を持って育てないと、大学に入ったときに、要はタイムが止まったりしたときに頑張れないんです。大学に入ってからの方が絶対に伸びるはずなんだけれども、大学に入るとスイミングスクールのように個別指導とは違うので、大体チームで自主練習のようになっていくと思うんですけど、そこでやっぱりジュニアのときにそういう強い精神面をつけてあげないと、努力ができなくなってきました。やはり成長も止まってきたり、疲労も増えてくる。回復も遅くなってきて、つまりいたときに頑張れなくなっていく。だから、やはりそういう精神面、精神力は、ジュニアのうちにしっかり植え付けるべきだと思います。



平成29年 新委員長会議



日 時：平成29年 1月27日(金)

16：00～17：30

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ

平成29年度・30年度の各委員会・研究会の「新委員長・新会長」及び「新活動テーマ」決定後の初会議を開き、新委員長等が活動方針を発表した。以下、各委員会・研究会の委員長、委員会テーマ、概要（要旨）を記載。



産業政策委員会

〈委員長〉

野田 和郎

〈委員会テーマ〉

栃木版 働き方改革

～人財確保と生産性向上の両立を目指して～

〈活動方針（要約）〉

企業の持続的な成長を維持しながら、個々の社員の貢献に適切な処遇が行えるより実効性の高い人財活用、雇用戦略の立案、実施が



求められる。今後国の様々な施策が発表されるが、栃木県ならではの産業・環境・風土等を考慮した手法提言に向け、調査・研究を行う。

地域振興委員会

〈委員長〉

板橋 信行

〈委員会テーマ〉

魅力ある地域の創造

～選ばれる観光地を目指して～

〈活動方針（要約）〉

今後は東京オリンピック・パラリンピックの開催等により更なる観光客の増加も見込まれていることから、増加する外国人旅行者を如何に取り込むかまた観光振興の担い手育成等の提言に向け、調査・研究を行う。



経営問題委員会

〈委員会〉

榊原 章

〈委員会テーマ〉

競争力強化のための

ダイバシティの実現～人財の育成・活用の方策～

〈活動方針（要約）〉

次世代を担う人材を効果的に採用し、育成する仕組みを構築し継承していくためにはどうしたらよいか。将来にわたる人材の採用・育成に求められる方策の提言に向け、調査・研究を行う。



社会問題委員会

〈委員長〉

上野 勝弘

〈委員会テーマ〉

空き家問題対策

～空き家の利活用方策について～

〈活動方針（要約）〉

空き家を単なる問題点として取り扱うだけでなく、資源として捉える視点の導入と新たな活用方法等の提言に向け、調査・研究を行う。



国際化推進委員会

〈委員長〉

益子 博美

〈委員会テーマ〉

グローバル人財の育成

～国際感覚あふれる人づくりから地元定着への仕組みづくりまで～

〈活動方針（要約）〉

異なる文化・価値を理解できる国際感覚にあふれた強固な人財育成から、当会で支援してきた「トビタテ！留学JAPAN」の派遣留学生等、育成した人財を如何にして地元栃木に根付かせるかの提言に向け、調査・研究を行う。



社会貢献活動推進委員会

〈委員長〉

大西 盛明

〈委員会テーマ〉

栃木県の次世代を担う

人財の育成

～キャリア教育への支援～

〈活動方針（要約）〉

次世代を担う「人財」を育成する効果的な方法や内容、実施の在り方等を模索・検証し、さらに関係諸機関との連携を密にしながら更なる発展を目指して、調査・研究を行う。



行財政改革委員会

〈委員長〉

岩見 高士

〈委員会テーマ〉

行財政改革と公民連携の在り方について
～官から民への更なる流れづくり～

〈活動方針（要約）〉

今後、地方財政の健全化や持続発展可能な地域社会の確立のための1つの策として、民間活力の積極的な導入などが挙げられ、公民連携の実現や担い手の育成等の提言に向け、調査・研究を行う。

未来経営研究会

〈代表世話人〉

平野 一昭

〈委員会テーマ〉

革新的経営の探求

～100年企業を目指して～

〈活動方針（要約）〉

先進的な取組を行っている企業や経営者のもとへの視察を積極的に行い、既成概念や既得権益に捉われない革新的な経営手法の学びを得ながら、調査・研究を行う。

また当研究会は、会員相互の懇親を深め同友会活動がより活発になる一翼を担う。



栃木交流研究会

〈代表世話人〉

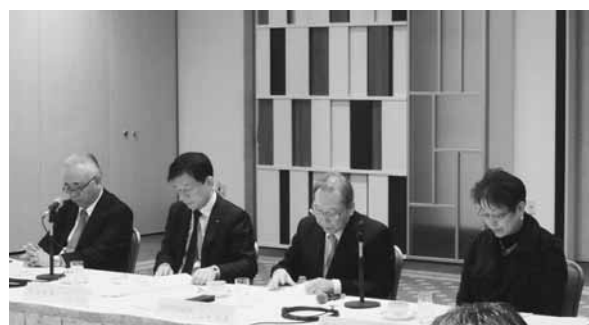
大曲 圭一郎

〈委員会テーマ〉

栃木の歴史と文化に触れる

〈活動方針（要約）〉

栃木県の歴史、文化、観光等に関する調査・研究を行うとともに、「栃木の魅力」の情報発信にも力を入れるため、会員企業の本社（東京など首都圏）で栃木のPRイベント（物産展等）実施の検討も行う。



未来経営研究会 第3回例会 ハワイ視察

代表世話人 郡司 祐一（㈱関東農産 代表取締役）

日 時：平成29年2月15日(水)～20日(日)

場 所：日本通運㈱ハワイ営業所・グリーン
スパハワイ・㈱白木屋 その他

参加者：10名



（㈱白木屋にて）

当研究会では、優れたリーダーシップの獲得～未来を創るリーダーたる人間力向上～をテーマに調査研究をしている。今回は、グローバル視点からのリーダーシップを学ぶべく、ハワイの物流の現状・経済規模・人口動態から、子供達へのリーダー教育、ハワイの事業環境等に至るまで様々な切口で視察を行った。

第一部：日本通運㈱ ハワイ営業所
安達GM、田中マネジャー



【ハワイの概要】

ハワイは、アメリカ50州の中で、1959年に最後に加盟した州で、ハワイ島・オアフ島・カウアイ島・モロカイ島・ラナイ島・カホオ

ラウェ島の6つの島と100以上の小島から成ります。人口は142.9万人（2015年現在 毎年増加傾向）、面積は16,638km²（陸地のみ 岩手県15,279km²）。

【ハワイの主要産業】

①観光業

州の収入の25%を占める。観光客数は、年間800万人超を誇る。（内訳：米本土490万、日本150万、カナダ50万、韓国18万、中国16万 2015年現在）

※観光客一人当たりの消費額：アメリカ人150ドル、日本人289ドル、中国人400ドル

②農林水産業

州の40%が農地。主産物は、コーヒー、ナッツ、パイナップル。

③軍関係

陸軍・空軍・海軍全ての司令部あり。ハワイ産業の50%の規模。オアフ島の20%の敷地が軍事用。

④製造業

織物、ジュース、ジャム、民芸品等。工業品は少ない。

⑤サービス業

食品、消耗品の小売業、不動産業、ヘルスケア、ファイナンス他。

【ハワイの物流】

米国本土から多くの生活物資が輸送されているが、ハワイ⇒本土では貨物量は少なく、片荷状態になっている。日本航路でも同じ状況。

第二部：グリーンスパハワイ

代表 イゲット千恵子 氏（女性起業家）



【アメリカの教育】

①正解主義ではない教育

- 日本だと $1 + 1 = 2$ とかいう形で反復練習する。アメリカは2になる答えは何通り考えられますかという、逆の発想を考えさせる。答えは一つでなく、クリエイティブな能力を鍛えている。

⇒一つの答えがダメでも代替案がすぐ探せる。

②経営者を育てるベンチャー教育

(お店屋さんごっこで原価率計算)

- お店屋さんごっこ。例えばレモネード屋だから、レモン・カップ・人件費・家賃・付加価値がいくらで、1杯7ドルで売り出す。一見儲けすぎだが、オーガニックレモンに高級ハニーを使用したりとマーケティングの感覚も養っている。
- 遊ばせる段階でその経営者教育を受けてる子どもたちというのは、何か物を売るときに最初に利益を乗せるということは当たり前として取らえている。

③人の能力を尊敬する力(多様性の考え方から)

- 人の能力をすごく尊敬する国であり、障害が決してハンディではない。絵の才能・記憶力・耳が良い他、人には良いところがある。
- 必ず子どもたちが自分が一つ自信があるものがあれば、生きていけるのではという育て方をする。

④ハワイの子供は自己肯定感が高い

- 親は子供をみんなの前で自信満々に褒める。子供自身は自己肯定感が高い。根拠のない自信持ってる人が沢山いる。
- 日本人は、謙虚の文化でできて80%しか表現しない。アメリカは、私はこんなにできると120%の表現をする。比較したらどうしてもアメリカ人を選んでしまう。はったり聞こえるかもしれないが、120パーセントって言うておけば、100パーセントの能力も120パーセントにできる可能性があるという意味では面白い。



【子供のビジネスセンスの学び方】

①小学2年生からパワーポイント使用

- 授業参観で、読書感想文をパワーポイントを作成して発表。場数を踏んで、緊張せず堂々と発表できる人となる。

②投資される人材を育成(奨学金制度)

- 投資される人材を育成する、奨学金の制度というのが日本とは違。返さなくていい奨学金がすごく沢山ある。(例：アップル…年間数百億円の寄付他)
- 優秀な子であれば優秀な子であるほど、ほぼ無料で進学できる。更に生活費まで出るというくらい奨学金をもらえる子がいる。
- 奨学金をもらえない子は、年間750万円程度の学費がかかってしまう。親は必死で教育は投資という考え。

③高校生で株を持ち、起業する

- 高校生でも株を持って、起業する人も沢山いる。
- アメリカは入試でテスト形式の試験が無い。自分がどのようなことを学んできたか、どういうことをしたくて大学に入りたいかを見る。エッセーや作文によって、合否や奨学金の額が決定する。

④どこでも、誰とでも働ける多様性

- ハワイは、唯一アメリカの国内の州の中でも人種が溶け合って仲良く暮らしてる場所とされている。
- バイリンガルとか言語が沢山できる子も沢山いる。文化も共有する。
- 現在、日本からの教育移住が増えている。様々な教育のメリットがある。



第三部：(株)白木屋（業暦355年の老舗百貨店）
森副社長

【ハワイ（アメリカ）の雇用事情について】

- ・従業員や部下のミスや遅刻等を注意する時に指さして指導してはならない等、雇用側がやってはいけないことが沢山ある。中々その辺のさじ加減が難しい。
- ・アメリカ人はドライなところもあり、言われたこと以外はやらない。何時に何やって、君の仕事の範囲、責任の範囲はここからここまで。ここに関しては私に聞く、ここに関しては下に指示する。ジョブ・ディスクリプション（職務記述書）を必ず用意して、細かく指示を出す。
- ・仕事の範囲を明確にしてあげて、その中で成功報酬等のインセンティブを付けるとやる気になる。

【ハワイで日本企業の事業展開が長続きしない理由】

- ・アロハスピリッツの存在がある。意味は、日本人からいかに儲けるかということ。
- ・契約書は英語でもしっかり自分で読まないといけない。しかし日本人は、人に任せてしまう。後でトラブルが起きた時に、契約書に書いてあると言われて失敗する。
- ・ハワイの議員も役人も、許認可団体も不動産屋も、会計士も弁護士も、コンサルタントも、建設会社も日本人から儲ける考えがある。だから、ラーメン屋1軒開店するのに2年かかるのは普通。その間、雨や風で工事が遅れる。そして何故か施主がゼネコ

ンに遅延損害金を支払い、大家には仮家賃払って、そのうち従業員のビザも切れ、オープンする頃には日本からの資金が尽きて、撤退していく。そういうことが普通にある。

- ・日本人は海外での認識が甘いところがある。ハワイは日本に近いし日本語も半分通じるし、日本食に対しての理解があると思いがちだが、ここはアメリカで契約社会。アメリカは色んな民族がいて、色んな宗教の方がいて、色んな価値観の人がいる。だから、はいと言ったその一言のニュアンスが全員違う。そういう意味では、紙に書いてあるもの以外は全部無効であり、契約書が全てである。

～最後に～

三日目は、ゴルフ組と観光組に別れ、ゴルフ組はパールカントリーにてラウンドを行った。観光組は12月に安倍首相が献花を行ったばかりのパールハーバー見学ツアーに参加した。

視察では三者に幅広い面で貴重なお話をいただいたが、その他にもハワイの自然や文化、食べ物、お酒を味わうことができ、会員同士の親睦も深まった。

限られた時間であったが、日常生活とは違ったグローバル環境の中で様々な発見があり、大変有意義な視察となった。



栃木交流研究会「温泉とらふぐ・山あげ視察」

栃木交流研究会 会長 大曲圭一郎（大成建設㈱関東支店宇都宮営業所 所長）

日 時：平成29年 2月17日(金)

会 場：那珂川町及び那須烏山市

- ・「㈱夢創造海産魚種養殖センター」
- ・「那珂川町馬頭広重美術館」
- ・「山あげ会館」

当研究会の3回目の視察は、14名が参加した。

温泉水でトラフグ養殖をする㈱夢創造海産魚種養殖センター、隈研吾氏設計の那珂川町馬頭広重美術館、ユネスコ無形文化遺産に登録された山あげ祭の全てが分かる山あげ会館の3ヶ所を視察した。

那珂川町「㈱夢創造海産魚種養殖センター」

㈱夢創造海産魚種養殖センターでは、海のない栃木県で豊富な温泉水資源を利用し、温泉とらふぐを特産品にするまでの開発の経緯や今後の取組等について伺った。地域活性化と社会貢献の具体的取組も伺い、大変充実した視察となった。



那珂川町「那珂川町馬頭広重美術館」

歌川広重の東海道五十三次「庄野（白雨）」をモチーフに隈研吾氏の設計による建物は、「広重の芸術と伝統を表現する伝統的で落ち

着きのある外観」をコンセプトとし、自然豊かな那珂川町の景観に溶け込み、心安らぐ美術館だった。

浮世絵で楽しむ源氏物語の企画展があり、じっくりと浮世絵の世界に浸り、物語の面白さも満喫することができた。また、版木等浮世絵が摺られる過程も展示されており、大変勉強になった。



那須烏山市「山あげ会館」

ユネスコ無形文化遺産に登録された、450年の伝統を誇る野外劇「山あげ祭」。山あげ会館の館内にはその山あげ祭に使う屋台が常時3台あり、人間そっくりのロボットの訛りまじりの講釈や大画面によるハイビジョン映像等、烏山の魅力、山あげ祭の雰囲気十分に浸ることができた。その反面、夏に行われる本物の日本一の野外歌舞伎の迫力と素晴らしさを実感したいという参加会員も多かった。

昼食は、那珂川町の温泉とらふぐがおすすめのお店「大八寿司」で、㈱夢創造海産魚種養殖センターから前日仕入れたという温泉とらふぐをいただき、さらには会員相互の親睦を深めることができた。



平成28年度 各委員会・研究会の正副委員長会議



日 時：平成29年 3 月14日(火)

16：15～17：45

会 場：ホテルニューイタヤ南館 3 階
「蓬萊の間」

冒頭、小林筆頭代表理事の挨拶をいただき、その後各委員会・研究会の平成28年度の主な活動報告（視察等）及び提言書または報告書の概要について発表をした。以下、各委員会・研究会の委員長、委員会テーマ、概要（要旨）を記載。



【小林筆頭代表理事 挨拶要旨】

7つの常設委員会と3つの実行委員会及び研究会が活発に活動している甲斐あって、今年度は4つの提言書をまとめるといった歴史を振り返っても前例が無い程の年となった。この会議を通して、委員会の壁を取り払った共通課題の検討・連携の強化、ひいては当同友会の一体感の醸成を図っていただきたい。

委員会活動が更に活発化することを期待する。

【産業政策委員会】

提言書「とちぎ版 起業家教育のススメ」作成

女性起業家を輩出しやすくする仕組みについて調査研究を進めたが、そもそも気持ちが育っていない現実直面し、その先には子供の自己肯定感の低さや起業家を評価しない風潮等の諸問題があった。その解決方法として最も期待できる手法が「起業家教育」である。提言項目では、小・中学校や普通科高校での起業家教育の実施を薦める内容となっている。



【地域振興委員会】

提言書「トチギの未来夢計画」作成

2020年東京オリンピック開催20年後の2040年の栃木県内人口220万人を目標に掲げた計画を作成。具体的にはハード整備を中心とした内容とし、魅力ある栃木づくりによって都道府県競争に打ち勝って人口の社会増を図ろうとするもの。提言項目としては、県都宇都宮市のネットワーク型コンパクトシ



ティ推進や新たな地位拠点の創出等6つの項目から成る内容となっている。

【経営問題委員会】

報告書を作成

企業連携の手法は目的に応じて多面的であり、具体的事例を踏まえ多くの手法を調査研究してきた。中小企業連携の現状と課題を再確認し、事業環境が大きく変化する中、中小企業が単独の経営資源で持続的成長に取り組むのには限界があり、「企業連携」は必要不可欠な戦略の一つであることを再認識するとともに、連携のポイントとして、トップのリーダーシップや連携先との良好な関係構築等を挙げた内容となっている。



【社会問題委員会】

提言書「とちぎの若者ふるさと回帰支援策」作成

本県における人口構成を見ると、20～30歳代の女性比率が全国と比較し低い。中でも、若年女性（20～24歳）が大幅な転出超過となっている状況に焦点をあてた。提言項目は、栃木県育英会学生寮への交流の場設置及び学生と地元企業のマッチング機会の創出、「とちぎ未来人材応援事業」の要件一部見直しで女性支援、「とちまる就活アプリ」の活用、以上3つの内容となっている。



【国際化推進委員会】

報告書を作成

行政や大学コンソーシアムとちぎと連携して効果的なグローバル人材育成の仕組みについて調査・研究を行ってきた。「トビタテ！留学JAPAN」では、成果報告会により帰国した留学生に体験に基づいた発表をしてもらい、人材育成の一助となったことが確認できた。秋田視察では国際教養大学の



鈴木学長に大学の在り方、教育、人材育成論について講話をいただいた。報告書では課題や今後の取組みについて纏めた内容となっている。

【社会貢献活動推進委員会】

報告書を作成

これまでの研究成果から、人づくりはより良い地域づくりの第一歩と考え「中学校と高等学校への講師派遣事業」を中心にその充実を図ってきた。今年度の実績としては中学校・高等学校合わせて19校、延べ22人の講師を派遣した。次年度以降も、栃木県教育委員会との連携強化、学校、家庭そして地域・社会や産業界等での「協働」を念頭に、キャリア教育の推進、事業の継続を図る等の内容となっている。



【行財政改革委員会】

提言書「ICT立県とちぎを目指して」作成

人口減少社会における地方創生の取組みには、ICTの利活用は必要不可欠であり、人口減少社会では生産年齢人口の減少によるマーケット縮小、税収減少に伴う公的サービスの低下、社会保障費の負担増や医療・介護の不足による生活水準の大幅な低下など様々な課題が挙げられる。そこで平成27年10月に県が策定した「とちぎ創生15戦略」をより効果的に実施できるようICTの戦略的利活用についての提言を取り纏めた内容となっている。



【地域活性化支援実行委員会】

報告書を作成

地域活性化のためには、本県にとって誇りである4プロスポーツチームが様々な分野で連携を深めること、またそれらを活



用したスポーツツーリズムを進める必要があると考え調査・研究を行ってきた。今年度は4プロ観戦の他に先進地視察（大阪）を行い、官民連携（PPP）の仕組み等の調査も行った。これらの活動を纏め、当委員会の4年間の活動において一定の役目を果たすことができたことから、活動を終了とし、更なるとちぎのスポーツを通した地域活性化について期待する内容となっている。

【未来経営研究会】

報告書を作成

テーマに基づき企業視察や講演会を数多く実施し多くの学びを得ることができた。企業にとって一番大切なのは「人」であり、企業の発展は「人」にかかっていることを再認識した。またリーダーシップの形も最近は変化しており、奉仕型リーダーシップの効果が注目されている。今後地域や企業を活性化していくには、創造力とそれを活かしたチャレンジを、失敗を恐れず継続していくことが重要等、活動を通して課題等を纏めた内容となっている。



【栃木交流研究会】

報告書を作成

2年間に渡り栃木県の歴史・文化・観光等に関する調査・研究を行ってきた。栃木の魅力を全国に発信するために、数多くの視察を行った。また平成28年度に、とちぎ愛あふれる会員と地元企業の経営者等で栃木の魅力を語り合う番組「同友酒場」の収録・放送を実施した。栃木県の歴史、文化、観光資源の素晴らしさや豊かさを見直すきっかけとし、今後の栃木県経済発展のために少しでも活用してもらえるような内容となっている。



少子高齢化対策および障がい者福祉を推進する

NPO法人・ボランティア団体による活動報告会

－（公社）栃木県経済同友会「第10回社会貢献活動支援助成」活動報告会－

社会貢献活動推進委員会委員長 大西 盛明（㈱オニックスジャパン 代表取締役）

日 時：平成29年3月18日(土)

会 場：宇都宮大学 学生会館

参加者：70名（助成団体関係者等含む）

栃木県経済同友会では、昨年6月に「少子高齢化対策」や「障がい者福祉」に関する社会貢献団体へ、総額200万円の支援助成を行った。

今回は、支援助成15団体の活動報告会を開催した。会員の方々をはじめ、外部選考委員、助成団体関係者等、多方面の方々に参加いただき盛大に開催された。5分間という限られた時間だったが、各団体とも工夫を凝らした発表を行った。



【第1部】活動報告会

主催者挨拶

【社会貢献活動推進委員会

大西 盛明 委員長】

この支援助成事業は当委員会が担当し、これまで各種団体の皆様と協働しながら、経済団体として求められる協力・支援体制の確立等を図ってきた。そして、今年度で10回目を迎え、延べ187団体へ1,358万円に上る支援をすることができた。

この10年間で、これらの事業に取り組むNPO法人等の数も飛躍的に増加し、当会の活動も社会的気運の醸成に一定の貢献ができたのではないかと自負している。そのような

ことから、私ども経済同友会としても役割を全うすることができたものと判断し、「社会貢献活動支援助成」を今年度をもって終了することとなった。これまで本事業に御協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

本日の報告会や交流会を通して、各団体の熱心な活動が、さらに多くの方々に認知され、相互関係を深め、より活発な活動が展開され、ひいては、より良い地域社会が構築されていくことを祈念したい。



活動報告

〈支援助成団体と助成金の使途〉 ※発表順

①花水木の会

ワークショップ会場費、講習会講師謝金等

②キャロットの会

パペット、指人形、人形劇・紙芝居舞台等

③大平ウィルチェアダンス研究会

車椅子賃貸料・メンテナンス代、研修費等

④特定非営利活動法人 生涯発達研究所

各種セミナー等の開催費用





- ⑤認定特定非営利活動法人 もうひとつの美術館
公開制作開催費用、材料費等
- ⑥子育て応援サークル こっころ
各種子育て講座費用、フラスカート代等
- ⑦とちぎ思春期研究会
学習会開催費用、展示や教材作成費用等
- ⑧みんなだれかの、仲良しの世界
チャリティーイベント開催費用、広告代等
- ⑨なつかしの童謡会・おやま
コンサート会場使用料、会議活動費等
- ⑩みらい・ともに・すすむ
読み聞かせ活動費用、絵本等の書籍購入代
- ⑪マジック小山
6種のマジック用具、24枚のシルク購入費
- ⑫ビレッジ収穫祭実行委員会
自然体験、調理体験、伝承遊び体験等費用
- ⑬学びの映像舎
DVD制作及び配付に関わる費用
- ⑭食事サービス さくら草
研修費、調理器具、広告費、ガソリン代等
- ⑮横川地区こどもとふれあう会
イベント用材料費、簡易トイレ、テント等



【第2部】交流会

開会挨拶

【社会貢献活動推進委員会

鈴木 二郎 副委員長】

【学校法人桜が丘学園ゆたか幼稚園

理事長・園長】

皆様、長時間、大変お疲れ様でした。

いよいよ社会貢献活動支援助成が第10回となり、一つの区切りを迎えた。感慨も一入で、今日も15団体のすばらしい一年間の活動報告を伺い、心を打たれた。毎回新鮮な思いがあり、皆様の御努力に対し、敬意を表したい。

10年間を振り返り、二つ新たな思いを持った。一つ目は、各団体には理念や目標、そして御努力があり、皆様の価値観、生き方がすばらしい活動につながったという点。毎回学ぶことが多く、今回も皆様の姿から自分の生活を振り返り、自分のすべきことがたくさんあるのではないかと、栃木県経済同友会としても今後の応援の仕方を考えることも含め、感銘を受けた。

もう一点は、一般の市民の方から見ると、まだ特別なこととを感じる点である。誰もが参加でき、理解され、参加できること。それが心豊かな共生社会を作っていく面では大変重要なことと思う。そういう意味でも皆様の活動は大変価値があり、尊いと、10年間関わりを持たせていただいて強く感じた。

最後に、「ぼぼら」や「まちはあ」等中間支援センターの方々、外部の選考委員の皆様の御支援、御協力があった



からこそ、10年間の支援助成が継続できたので、御礼の言葉としたい。

交流会では、助成団体の方から直接の感謝の言葉を伺うことができた。会員や選考委員、及び各団体の方々との情報の交換と貴重な交流の場となった。

提言書報告会

〈産業政策委員会・地域振興委員会・社会問題委員会・行財政改革委員会〉

日 時：平成29年 3月22日(水)

16：00～17：15

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ

平成27・28年度の委員会活動を通じて、今回4件の提言書を出すこととなったことから、初の試みとして各委員会の委員長から提言書の内容について発表いただく機会を設けた。



【産業政策委員会 板橋 信行 委員長】

女性起業家を輩出し易くする仕組みについて焦点を絞り調査研究を進めた。起業家率向上のためには起業家教育によりチャレンジ精神溢れる未来世代の育成が必要である。昨今の企業活動低迷の要因は、身近に起業を知らない、起業に関して知識・経験がない、起業の素晴らしさが伝わっていない等々が挙げられる。これらの諸問題を効果的に解決し、様々な波及効果が期待できるものが「起業家教育」であると考え、「起業家教育の取組みにより、チャレンジ精神旺盛な未来世代の育成を」とする提言を行うものである。具体的には、小・中学校教育から起業家教育の導入を促進すること、普通科高校での起業家教育の取組みを強化する内容となった。

起業家教育は、自己肯定感等の向上に留まらず、地域の人との触れ合いを通じたロールモデルとの出会いや郷土愛、社会貢献意識の醸成に繋がることから、産官学金労言のオール栃木体制で栃木版起業家教育の構築を促したい。



【地域振興委員会 村上 龍也 委員長】

2040年の県内人口220万人を目指す「トチギの未来夢計画」を策定。内容は魅力あるトチギづくりによって都道府県間競争に打ち勝って人口の社会増を図ろうとするものであるため、ハード整備を中心とした内容となった。具体的には宇都宮市におけるネットワーク型コンパクトシティの推進や県内各市町における拠点整備の推進、東京圏へのアクセス向上の強化や観光地の魅力アップ等々について謳っている。これら提言の実現に向け経済界からのメッセージとして「地域経済の立て直しと地場中小零細企業の再生」を強く発信する。

最後に、将来を見据えた長期視点からの地域整備を進めることは決して無駄ではなく、この提言をきっかけにトチギの将来像について、夢のある真摯な議論が行われ、行動に繋がること期待したい。



【社会問題委員会 上野 勝弘 委員長】

テーマに「少子化対策～若者が住みたくなくなる魅力あるとちぎを目指して～」を掲げ、少子化対策の一つとして「若年女性の本県への回帰」に絞り込み調査研究を進めた。本県の現状として20歳～39歳の女性割合が全国と比較しても低く、中でも20歳～24歳の若年女性が大幅な転出超過となっている。そこで、本課題を早期に着手すべき重要課題の一つと捉え、今回3つの提言を掲げた。具体的には、栃木県育英会学生寮建替え時にサロンを設け学生と地元企業のマッチング機会を創出すること、とちぎ未来人材応援事業の見直し（基金への総額450万円の寄付）を行うこと、とちまる就活アプリの活用促進を図ることとなっている。

当委員会のテーマである「少子化対策」という大きな目標に対して、今回研究対象とした「若年女性の本県への回帰」だけで課題すべて解決できるものではない。他にも小中高生を対象とした郷土教育の実施や保護者への地元企業の情報提供等々、課題を多面的に捉えながら、取り組み続けていくことが重要である。

最後に、今回の提言をきっかけとし、地元企業における女性の働き方や経営トップの意識改革等の企業が取り組むべき課題といった議論が喚起されることを期待したい。



【行財政改革委員会 伊沢 正吉 委員長】



今回の提言の背景にあるのは、人口減少社会を迎える中で、ICTの利活用による行政経営の生産性向上、産業と行政のミスマッチ解消にある。栃木県の行政は、ICTの活用が遅れていることから、本提言をきっかけとし、ICT立県とちぎを実現させる。そこで提言にICTに強い自治体づくり、ICT立県のための市町との協働・産学官の連携を掲げた。具体的には、新たに情報責任者（CIO）の設置による組織体制の確立と専門人材の育成、市町・大学・企業と協働・連携し、県庁内にICT立県とちぎ戦略会議（仮称）を設置することとした。

ICTの技術発展は目覚ましく、ICTの利活用が地域経済の発展を左右するといっても過言ではない時代を迎えている。今後は、ICTを戦略的に利活用することにより効果的に「とちぎ創生15戦略」を推進してICT立県とちぎの実現に向けて積極的に取り組むことを期待したい。



会 務 報 告			平成29年 1 月～平成29年 3 月（敬称略）
内 容 ・ 日 時	議 事 ・ 報 告 等	出席者	
第 4 回産業政策委員会 平成29年 2 月 2 日(木) 16：00～17：30	(1) 平成27年度・平成28年度の活動報告 提言書まとめに至った経緯等 (2) 提言書内容について (3) その他	12名	
県政記者会との意見交換会 平成29年 2 月 7 日(火) 15：00～	(1) （公社）栃木県経済同友会の活動内容について (2) 意見交換会	25名	
第 5 回地域振興委員会 平成29年 2 月21日(火) 15：00～	(1) 「トチギの未来夢計画」について (2) その他	31名	
第 4 回社会問題委員会 平成29年 2 月22日(水) 16：00～	(1) 「提言書」について (2) その他	10名	
第 6 回行財政改革委員会 平成29年 3 月 6 日(月) 16：00～17：30	(1) 平成27・28年度の活動報告 (2) 提言書提出報告 (3) 平成29・30年度の活動計画（テーマ等）	11名	
第 4 回理事会 平成29年 3 月10日(金) 16：20～16：50	議 事 (1) 会員の新規入会について (2) 名誉理事の委嘱について (3) 名誉会員の委嘱について (4) 特別会員について (5) フェロー会員の委嘱について (6) 常勤役員の委嘱について (7) 未収金に対する債権放棄について 報告事項 (1) 会員の異動について (2) 芳賀・宇都宮 L R T 整備の推進に関する要望書の提出について	15名	
第 4 回幹事会 平成29年3月10日(金) 16：50～18：20	議 事 (1) 平成29年度事業計画について (2) 平成29年度収支予算について (3) 委員長の選任について 報告事項 (1) 平成28年度表彰選考結果について (2) 未来経営研究会代表世話人の選任及び調査研究テーマの決定について (3) 第30回全国経済同友会セミナー次期開催地 P R について (4) 企画運営委員会委員について	33名	
第 5 回理事会 平成29年3月10日(金) 18：20～18：30	(1) 平成29年度事業計画について (2) 平成29年度収支予算について (3) 職員の採用について	15名	
第 2 回栃木交流研究会 平成29年 3 月13日(月)	(1) 平成28年度活動報告 (2) 平成27年度・平成28年度報告書について (3) 同友酒場シーズン 2 について	11名	

第5回社会貢献活動 推進委員会 平成29年3月18日(土)	(1) 平成28年度事業報告 (2) 平成27年度・28年度活動報告書について	9名
第5回国際化推進委員会 平成29年3月23日(木)	(1) 平成28年度活動報告 (2) 次年度の活動について	11名
第5回産業政策委員会 平成29年3月24日(金)	(1) 平成27年度・平成28年度の活動の総括 (2) 次年度テーマと調査研究の方向性 (3) その他	28名

中学校・高等学校への講師派遣事業 (1～3月) (実施順、敬称略)

○栃木県立宇都宮南高等学校 (2年生)		
1月16日(月)	(株)鈴和 代表取締役社長 鈴木 秀明	280名
○小山市立大谷中学校 (2年生)		
1月26日(木)	(株)古口工業 代表取締役 古口 勇二	156名
○宇都宮市立雀宮中学校 (1年生)		
1月30日(月)	東京海上動火災保険(株) 理事 栃木支店長 多賀 信彦	66名
○那須塩原市立東那須野中学校 (2年生)		
2月1日(水)	(株)酒井建築設計事務所 代表取締役社長 酒井 誠	90名
○真岡市立真岡西中学校 (全校生)		
2月3日(金)	(株)オニックスジャパン 代表取締役 大西 盛明	590名
○足利市立富田中学校 (1年生、2年生)		
2月4日(土)	(株)スキット 代表取締役社長 山田 義治	37名
	(株)サンテック 取締役副社長 屋代 郁夫	38名
○那須烏山市立南那須中学校 (2年生)		
2月14日(火)	(株)アイディ 代表取締役 田村 晃	120名
○栃木県立宇都宮中央女子高等学校 (1、2年生)		
3月14日(月)	ビューティアトリエグループ (総美(有)) 代表取締役社長 郡司 成江	560名

ボランティアプロフェッサー講師派遣事業 (1～3月) (実施順、敬称略)

○宇都宮大学 工学部 [講座名: 経営工学序論]		
1月17日(火)	東京ガス(株)宇都宮支社 支社長 堀内 忠	70名
1月24日(火)	(株)開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	70名
1月31日(火)	(株)開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	70名

新しい仲間たち

●新入会員（敬称略・氏名50音順）

・平成29年3月10日

1. 会 員

 さわ だ ゆう じ 澤 田 雄 二 宇都宮中央法律事務所 弁護士 紹介者 関 雅樹 紹介者 中村 雄三	 のう み よし ひろ 能 美 慶 弘 帝人フィルムソリューション(株) 代表取締役社長
---	--

●会員の交代（敬称略・氏名50音順）※平成29年3月末日までの交代

 えん どう てつ や 遠 藤 哲 也 富士通(株)栃木支店 栃木支店長 変更前 加藤 泰夫	 かさ はら けん いち 笠 原 賢 一 キリンビール(株) 栃木支社長 変更前 神元 佳子
 か どう まさ とし 加 藤 雅 敏 日本生命保険相互会社 宇都宮支社長 変更前 太田 裕治	 きく ち まさ とし 菊 地 正 敏 宇都宮証券(株) 代表取締役社長 変更前 吉田 稔
 くろ もと じゅんの すけ 黒 本 淳之介 (株)栃木銀行 代表取締役頭取 変更前 鷹箸 一成	 さ どう まさ ふみ 佐 藤 政 文 損害保険ジャパン日本興亜(株) 栃木支店長 変更前 切替 和幸
 たか き じゅん いち 高 木 純 一 日産プリンス栃木販売(株) 代表取締役 変更前 廣渡 和重	 と づか しょういちろう 戸 塚 正一郎 (株)SUBARU 常務執行役員航空宇宙カンパニープレジデント 変更前 永野 尚
 なか むら たく や 中 村 卓 也 日産自動車(株) 理事 栃木工場長 変更前 橋本 修	 にし むら たく ひろ 西 村 拓 浩 東京海上日動火災保険(株) 栃木支店長 変更前 多賀 信彦
 まつ もと ゆういちろう 松 本 雄一郎 (株)三井住友銀行 北関東法人営業第二部部長 変更前 荒井 隆志	 みの わ あき ひと 三野 輪 明 人 (株)JTB関東法人営業宇都宮支店 支店長 変更前 板倉 豊



わた なべ のぶ ひろ
渡 邊 信 公
関東職業能力開発大学校
校長

変更前 荒 隆裕



わた なべ ひろし
渡 邊 弘
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
学長

変更前 太田 周

※平成29年3月末日現在の会員数は269名、準会員数は8名です。

引続き会員増強にご協力願います。

●事務局の異動

退任者

	退任 たか の まさ すみ 高 野 正 澄 任 期：平成25年10月～平成29年3月 派遣元：足利銀行	3年6ヶ月、同友会の柱である委員会事業を始め、大変貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。今後の企業活動においても貴重な経験を活かしたいと思います。これまでご指導、ご支援を頂きありがとうございました。会員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。
	退任 ほし 星 任 期：平成28年4月～平成29年3月 派遣元：栃木県職員（教員）	1年間の社会体験研修で、学校現場では決して味わえない貴重な経験をさせて頂き、誠にありがとうございました。会員の皆様には様々な場面で御指導、御支援をいただき感謝の気持ちでいっぱいでございます。4月からさくら市立熟田小学校へ帰任することになりましたが、同友会で学んだことを今後、教育界に還元して参りたいと思います。会員の皆様の益々の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。
	退任 はん だ えみ こ 半 田 恵美子 アシスタント	経済同友会での4年間は、私の人生において大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。今後はこの経験を活かし、さらに精進して参りたいと思います。 会員の皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。 大変お世話になりました。

新任者

	新任 きく ち きよ ひと 菊 池 清 人 任 期：平成29年4月～平成31年3月 派遣元：足利銀行	高野の後任として、行財政改革委員会を担当させて頂きます。この度は、同友会の一員として栃木県産業界を代表する皆様と、栃木県の発展に向けた業務に携われる事を、大変光栄に思います。一日も早く仕事に慣れ、組織の一員として役に立てるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。
	新任 たに うち まさ ひら 谷 内 昌 平 任 期：平成29年4月～平成31年3月 派遣元：栃木県職員（教員）	星の後任として、栃木県立高根沢高等学校より赴任して参りました。社会貢献活動推進委員会を担当させて頂きます。栃木県の産業を支える方々と御一緒に仕事ができることを、大変光栄に思えます。一日も早く仕事を覚え、同友会の組織の一員として役に立てるよう努力して参りますので、何卒御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。
	新任 はす ぬま しょう こ 蓮 沼 翔 子 任 期：平成29年4月～平成31年3月 派遣元：東京海上日動火災保険	「栃木県の経済発展と人財育成に貢献する」ことが私の夢でございました。同友会の一員として、栃木県産業界を代表する皆様方とお仕事ができますことを大変光栄に思います。国際化推進委員会と社会問題委員会を担当させて頂きます。一日も早く仕事に慣れ、組織の一員としてお役に立てるよう尽力致しますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。
	新任 は せ とも こ 長 谷 智 子 任 期：平成29年4月～ スタッフ	半田の後任として、4月より着任いたしました。栃木県の産業界を代表する方々とお仕事できますこと、大変光栄に思います。栃木交流研究会を担当させて頂きます。仕事に慣れないうちは、何かとご迷惑をおかけすると思いますが、何卒御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

(公社) 栃木県経済同友会行事予定

日・曜日	6 月 行 事 (内 容)	
14日(水)	モーニングセミナー	場所：宇都宮グランドホテル 時間：8：00～9：00 担当：菊池
20日(火)	通常総会	場所：ホテル東日本宇都宮 時間：15：00～ 担当：半田
日・曜日	7 月 行 事 (内 容)	
7日(金) ～ 8日(土)	サマーセミナー	場所：ホテルサンバレー那須 他 担当：國分・菊池・武藤
11日(火)	第2回 企画運営委員会	場所：事務局会議室 時間：15：00～17：00 担当：國分
12日(水)	モーニングセミナー	場所：宇都宮グランドホテル 時間：8：00～9：00 担当：菊池

- ・上記の予定は、5月13日までに確定しているものです。
 - ・開催未定の行事につきましては、確定次第、所属の委員・会員の方にご案内いたします。
- 栃木県経済同友会事務局 TEL 028-632-5511 ホームページ <http://douyuukai.jp>